県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの　１月号

農業普及現場

普及活動標語

思いを形に,あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.203　2024.1

紹介内容（12/１～12/31）

１．みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

①　先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

○　石　巻農改：アスパラガス栽培管理勉強会が開催されました！
○　気仙沼農改：第 68 回「竹駒産業文化賞」を受賞しました
○　気仙沼農改：南三陸町で地域計画に係るワークショップが開催されました
○　仙　台農改：令和５年度第１回仙台農業士会研修会が開催されました
○　大河原農改：JA みやぎ仙南農業法人会研修会で講師として参加しました

②　新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

○　亘　理農改：みやぎ農業未来塾「農業知識向上講座」を開催しました
○　美　里農改：美里町青生地区地域計画案策定検討会議が開催されました
○　栗　原農改：みやぎ農業未来塾 in くりはら「農薬の基礎知識研修会」を開催しました
○　登　米農改：登米総合産業高校の水稲資材試験の調査を支援しました
○　気仙沼農改：気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の牛乳・乳製品料理講習会が開催されました
○　栗　原農改：農作業安全基礎研修会を開催しました
○　登　米農改：登米市地域計画作成に係る「協議の場」が実施されました
○　登　米農改：新規就農者が先輩農家から技術を学んでいます！
○　美　里農改：美里地区女性農業者キャリアアップ研修会を開催しました

③　先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

○　登　米農改：登米市で開催された「令和５年度スマート農業推進セミナー」に参加しました

④　園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

○　登　米農改：JA みやぎ登米胡瓜部会の促成きゅうり品種説明会および病害虫講習会が開催されました
○　亘　理農改：りんごの品評会と販売会が開催されました
○　気仙沼農改：「南三陸大粒（おおつぶ）ぶどう協議会」が設立されました
○　大河原農改：ポットカーネーションの現地検討会が行われました
○　登　米農改：JA みやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催されました
○　栗　原農改：加工用ばれいしょ栽培振り返りを実施しました
○　仙　台農改：JA 新みやぎあさひなぶどう部会のせん定講習会が開催されました
○　栗　原農改：第３回シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました
○　美　里農改：「宮城県ぽてと生産者協議会」「株式会社舞台ファーム（美里グリーンベース）」の２団体が
　　みやぎ園芸振興大賞を受賞！
○　仙　台農改：大郷町でえだまめの振り返り検討会を開催しました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

④　園芸産地の育成・強化支援　（続き）・・９
○　美　里農改：日本なしのせん定講習会が開催されました
○　大河原農改：たまねぎ生産拡大に向けて先進地調査を行いました
○　大河原農改：火傷病に係る花粉確保の連絡調整会議を開催しました

⑤　収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
○　登　米農改：令和５年産稲作の総合検討会が開催されました
○　石　巻農改：大豆現地検討会（収穫前）が開催されました！
○　美　里農改：酒米の品質向上に向け一丸となって検討！　～松山町酒米研究会作柄検討会～
○　登　米農改：米山水稲部会の総合検討会が開催されました
○　仙　台農改：農地整備事業に向けた土壌調査を実施しました
○　気仙沼農改：高収益作物の試験栽培の振り返りを行いました
○　美　里農改：涌谷の「金」は来年もざっくざく！？～「金のいぶき」実績報告会

２．時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

①　時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
○　気仙沼農改：大麦の播種を行いました

３．多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

①　地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
○　登　米農改：宮城県庁にて生活研究グループの PR 販売会が行われました
○　大　崎農改：「やくらい土産センター・山の幸センター活性化研修会」（商品アピール力向上編Ⅱ）を開催しました
○　登　米農改：登米地区農村生活研究グループ生活改善実践交流交歓会を開催しました
○　登　米農改：古宿区画担い手会議が開催されました
○　大　崎農改：地域計画策定研修会（色麻町）が開催されました
○　大　崎農改：清水地区の若手農業者に大豆栽培講習会を実施しました
○　仙　台農改：仙台市下倉大原地区で鳥獣被害対策勉強会を開催しました

②　環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
○　仙　台農改：(有)大郷グリーンファーマーズがみどり認定を取得しました
○　栗　原農改：宮城県内初のみどり認定証授与式がおこなわれました
○　美　里農改：JA 新みやぎみどりの地区ほうれん草協議会の実績報告会が開催されました

１．人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○アスパラガス栽培管理勉強会が開催されました！

令和5年12月1日
石巻農業改良普及センター

令和５年 11 月 22 日、ＪＡいしのまき主催で東松島市の株式会社絆粋ファーマーズほ場を会場に生産者５人が参加し、アスパラガス栽培管理勉強会が開催されました。

現地ほ場のアスパラガスは、夏季の高温や害虫の発生が多かった中で、２ｍ以上に生長しており、株養成は順調です。

今年は 11 月に入ってからも温度が高く推移し、平年に比べ立茎した茎が青々としています。これから気温が低下し 12 月に向かって本格的に黄化し、養分転流が進んでいきます。しっかりと低温に当てることで養分を根に蓄え、来年の春芽の収穫が多くなると期待できます。

石巻管内は、１年で株を養成して翌年に採り尽くす「採りっきり栽培」と春芽収穫後に茎をのばして夏芽や翌年以降も収穫する「ハウス立茎栽培」が導入されています。令和４年度の全農みやぎ青果販売実績では県内一のアスパラガスの産地となっており、今後も生産の拡大が期待されます。

普及センターではＪＡいしのまきと連携して、今後とも栽培技術の支援を行っていきます。

○第68回「竹駒産業文化賞」を受賞しました

令和5年12月5日
気仙沼農業改良普及センター

竹駒神社（岩沼市）が、郷土の農林水産業等産業振興に功績のあった個人や団体に授与する第 68 回「竹駒産業文化賞」に、株式会社階上生産組合（気仙沼市）の代表取締役社長　佐藤美千夫氏が農業（個人）の部で選ばれ、令和５年 11 月 23 日、授賞式が挙行されました。

佐藤氏は、長年、組織の代表を務め、水稲、大豆、えだまめの生産に取り組んでいます。東日本大震災で壊滅的な被害を受けましたが、様々な苦難に向き合いながら営農を継続し、地域の農地集積やえだまめの特産化など地域農業を牽引してきました。また、農業を始め多方面で役職を歴任し、地域の発展に寄与されるなどの功績が評価されたものです。

11 月 28 日、佐藤氏が当地方振興事務所を訪れて受賞の喜びを報告し、「受賞を励みにこれからも頑張ります」と抱負を述べられました。

普及センターでは、これからも地域農業の担い手の取組を支援していきます。

○南三陸町で地域計画に係るワークショップが開催されました

令和5年12月5日
気仙沼農業改良普及センター

農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律の施行により、市町村は令和７年３月までに将来の地域農業の姿を描いた「地域計画」を策定することになり、当管内では、気仙沼市が７地区、南三陸町が４地区で計画を策定する予定です。このため、当普及センターでは、計画策定が円滑に進むように、市町に継続した支援をしています。

令和５年度は、南三陸町入谷地区が県の地域計画推進モデル地区に設定されたことから、当地区において計画策定に向けたワークショップが 11 月 10 日と 17 日の２回開催され、専門家による進行のもと、活発な話し合いが行われました。

ワークショップには、若手農業者が多く参加し、地域の課題解決策として、①観光農園や直売所等の設置、②空きハウスの有効活用や水稲作業の相互扶助、③荒廃農地を放牧地として活用等のアイデアが出され、今後、「地域計画」の素案を作成し、地域の農業者等を対象としたプレゼンテーションを行い、計画のブラッシュアップを図る予定です。

○令和5年度第1回仙台農業士会研修会が開催されました

令和5年12月11日
仙台農業改良普及センター

令和５年 10 月 31 日に仙台農業士会の令和５年度第１回研修会が開催されました。

今回の研修会は６名の仙台農業士会会員が参加し、県内二カ所の先進経営体への視察研修が行われました。

１件目は、七ヶ宿町の杜のいちご株式会社のグループ企業である名取市の株式会社ケロケロの杜を訪ね、グループのＣＥＯで、杜のいちご株式会社の代表取締役せある山口雅之氏に、また２件目は岩沼市の有限会社やさい工房八巻を訪問し、同社代表取締役八巻文彦氏の後継者で、同社社員として農産物の生産業務に従事しながら農業経営を学んでいる八巻文紀氏に、それぞれ経営体の取り組み内容や課題、将来ビジョンに等についてご講話いただきました。

杜のいちごグループは、杜のいちご株式会社を核としたいちごの生産者（６経営体）からなる組織で、業務用実需向けイチゴの生産販売をメインに活動しており、業務用実需向けイチゴの全国シェアの 10%を有しているとのことです。先進的な取り組みでグループ全体の経営発展に向けた斬新なアイディアを次々に実現しており、更なる展開も期待されます。

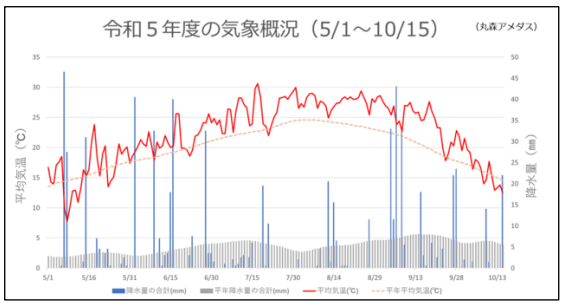
有限会社やさい工房八巻は平成 13 年にトマトを中心とした野菜の生産販売を本格的に開始し、収益性の高い複合経営への発展充実を図るために設立した法人でしたが、東日本大震災をきっかけに大規模水田を担う複合経営体へと発展しました。現在の経営規模は水田約 180ha（土地利用型作物＋露地野菜）、野菜施設面積 1.5ha（トマト等）となっています。20 代の若い従業員４人が主体となって農業生産に取り組む活気にあふれた経営体です。

参加者からは、視察を受け入れていただいた両経営体は、いずれもこれからの農業経営の在り方の考える上で非常に参考になる取組であるとの声が聞かれました。

○JA みやぎ仙南農業法人会研修会で講師として参加しました
令和5年12月12日
大河原農業改良普及センター

令和５年 12 月５日（火）に大河原町のララ・さくらで開催された JA みやぎ仙南農業法人会研修会（主催：ＪＡみやぎ仙南）に講師として参加しました。

普及センターからは、今年度の気象概況及び水稲の品質低下の要因、令和６年度から管内で作付が推進



される多収品種「ふくひびき」の品種特性等について説明しました。

普及センターでは、今後も飼料用米生産も含め、農家の所得向上・安定化に向け、引き続き支援していきます。

②新たな担い手の確保・育成

○みやぎ農業未来塾「農業知識向上講座」を開催しました
令和5年12月1日
亘理農業改良普及センター

令和５年 11 月 22 日（水）、亘理農業改良普及センターを会場に、新規就農者や若手農業者を対象として「みやぎ農業未来塾【農業知識向上講座】」を開催し、26 人が参加しました。

本講座では、まず公益社団法人緑の安全推進協会から派遣していただいた森島靖雄氏から、「農薬の適正使用及び病害虫防除」について、講演いただきまし

た。また、当普及センターから「農薬廃棄及び病害虫防除に役立つおすすめサイト」について、情報提供しました。その後、病害虫診断の実習をグループに分かれて行いました。実習では、用意したサンプルをよく観察しながら、時には診断アプリや参考書を見ながら、診断の練習をしました。

参加者からは「農薬については知識が定着していないところがあるので、整理できて良かった。」等の意見が寄せられました。

普及センターでは、今後も担い手の確保及び育成に務めてまいります。

○美里町青生地区地域計画案策定検討会議が開催されました

令和5年12月1日
美里農業改良普及センター

令和５年 11 月 16 日（木）に青生コミュニティセンターで、地域農業の担い手と美里町、農業委員会等の関係者を集め、地域計画案策定に向けた検討会議が開催されました。

青生地区（面積 291ha）は鳴瀬川沿いの平坦な水田地帯で、人・農地プランの中心経営体に農地の約 66%が集約・集積され、水稲・麦・大豆や露地野菜等がブロックローテーションにより作付けされています。

はじめに、美里町から農業経営基盤強化促進法の改正により、地域計画に登録された中心経営体が様々な支援制度を受けられることとなり、10 年後の目標地図や地域計画を６地区に分け、コンサルタントの協力により３回の会議で策定するとの説明がありました。

続いて、コンサルタントの指導の下、農業委員会が作成した現況図をもとに、ワークショップ形式で担い手４名が付箋に課題を書き出し、「未整備農地の将来のあり方を考えよう！」をテーマに、耕作放棄を防ぎ、地域農業を守る解決策を出し合いました。

その結果、「未整備農地は耕作条件が悪いので、交付金を活用しながら飼料米や牧草、緑肥等を作り、担い手の経営を第一に考え、耕作範囲や小作料等の条件を決めて耕作する。」「経営しにくい農地は、地域で協力し合い草刈り等の保全活動をする。」等の意見が出されました。

コンサルタントのファシリテーションにより、参加者が話しやすく、楽しい雰囲気で意見を出し合い、10 年後の地域計画を話し合うことができました。

美里町では令和５年度に青生、北浦、中埣の３地区の地域計画案策定会議を開催しており、普及センターでは目標地図や地域計画の策定に向け、担い手や町など関係機関と連携しながら支援を継続していきます。

○みやぎ農業未来塾 in くりはら「農薬の基礎知識研修会」を開催しました

令和5年12月4日
栗原農業改良普及センター

令和５年 11 月 22 日（水）に、宮城県栗原合同庁舎で、みやぎ農業未来塾ｉｎくりはら「農薬の基礎知識研修会」を開催し、新規就農者、女性農業者など５名が参加しました。

研修会では、公益社団法人緑の安全推進協会から講師を招き、「農薬の基礎知識と効果的な使用方法」と題して講演いただきました。農薬の意義や特性、安全対策のほか、抵抗性の発達と抑制方法、ＲＡＣコードを活用した防除体系等実践的な内容も多く、参加者は真剣に耳を傾けていました。

参加者からは、「花きのコナジラミ類に有効な薬剤を紹介してほしい」、「農薬の被爆防止と熱中症対策を同時にすすめるにはどうすればよいか」など、実践に即した質問が出されていました。

○登米総合産業高校の水稲資材試験の調査を支援しました

令和5年12月6日
登米農業改良普及センター

今年度、登米総合産業高校では学校田の授業の一環で、収量増加につながる特徴のある育苗培土の試験を実施しました。通常の調査だけでは効果が判然としない可能性があったことから、調査体験も兼ねて、穂数や籾数を調査して収量構成要素を比較することとなり、その具体的な調査方法について支援を行いました。

調査では、一穂籾数の測定等、普段の授業ではあまり経験の無い地道な作業が多く、参加した生徒６人は大変苦労した様子でしたが、最後まで調査をやり終えることができて安心した様子でした。

普及センターでは、今後も登米総合産業高校と連携して農業後継者育成を支援していきます。

○気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の牛乳・乳製品料理講習会が開催されました

令和5年12月7日
気仙沼農業改良普及センター

管内女性農業者の交流や連携活動の活性化と、国や県が消費拡大を進めている牛乳・乳製品に係る知識や加工技術を学び、新たな展開につなげるため、令和５年 12 月４日、気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の牛乳・乳製品料理講習会が開催され、グループ員 16 名が参加しました。

今回は、講師にリアスアーク美術館併設レストランのシェフを務める石田幸子氏をお招きし、チーズなどの乳製品と地域食材であるトマト、柚子、米を使った講師考案のクリスマス向けレシピを基に調理実習を行いました。調理では、オーブンや電動ミキサーなど様々な器具を使うことが多かったため、戸惑う場面では教え合い、また、お互いに料理の感想やレシピのアレンジを紹介し合うなど活発な交流が行われ、終始賑やかな時間となりました。

普及センターでは引き続き、女性農業者の取組を支援していきます。

○農作業安全基礎研修会を開催しました

令和5年12月12日
栗原農業改良普及センター

令和５年 12 月５日（火）に、栗原市築館で、令和５年度くりはら女性農業者キャリアアップ講座「農作業安全基礎研修会」を開催したところ、６人が参加しました。

初めに、ヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社アグリサポート部の阿部様より、「農作業安全の基礎知識について」と題して、農作業事故の事例等についてお話いただきました。

次に、講義の内容を踏まえて、同社の日野様及び藤井様より、管理機の安全な使い方やメンテナンス方法について実演をいただきました。

最後に、参加者がエンジンのかけ方や旋回、耕運作業等の実習を行いました。

参加者からは、「今までの使い方が危険だったと気付くことができた。」、「男性陣が不在のときでも農機具を使えるようになりたい。」との声が聞かれました。

○登米市地域計画作成に係る「協議の場」が実施されました

令和5年12月13日
登米農業改良普及センター

登米市では地域農業の未来設計図となる「地域計画」について、市内９地区で策定することとしており、農業者からの意見を反映した計画とするため、11 月 14 日～12 月６日までの期間に、市内９地区で１回目の「協議の場」を実施しました。

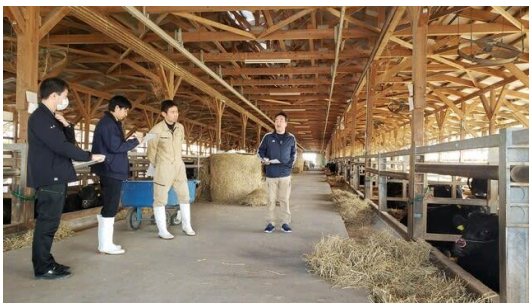
登米市からは「地域計画」策定の目的や意義、農業委員会からは「地域計画」と併せて作成する「目標地図」素案の作成について説明し、その後、協議の場の運営を担う㈱NORTH AIM の宮村氏がファシリテーターとなり、地域計画の作成に向けてワークショップが実施されました。

普及センターは、サブファシリテーターとして、ワークショップの進行や意見の取りまとめを支援しました。

昨年、中田地区をモデル地区として、ワークショップを実施した経験を基に開催しましたが、参加する農業者は初めての方がほとんどであり、意見のとりまとめなどに工夫を要した地区もありましたが、参加者からは地域の将来に向けて、担い手への支援策

など積極的な意見も多く出されました。
普及センターでは、第２回の開催に向けて、有意義な「協議の場」が実施され、地域の意見を反映した「地域計画」が策定されるよう引き続き支援してまいります。

○新規就農者が先輩農家から技術を学んでいます！
令和5年12月19日
登米農業改良普及センター



登米市で実施している「登米農業マイスター制度」を活用し、令和３年に水稲と肉用牛で就農した新規就農者が先輩農家（繁殖・肥育一貫）の個別技術指導を受けています。「登米農業マイスター制度」とは、新規就農者の早期の生産技術習得や経営安定化等を目的に、地域の熟練農業者を登米マイスターとして新規就農者のもとへ派遣し、個別技術指導により管理技術等について学ぶものです。
令和５年 12 月 11 日（月）に全３回のうち第２回目のマイスター巡回が行われました。今回は先輩農家の畜舎を見学し、肥育農家がどのようなことに重点を置きながら肥育しているのかなど詳しく説明いただきました。新規就農者から、肥育に係る経費や給餌について、素畜による成績の違いなどの質問の他、市場価格下落に対する今後の自身の経営方針を相談する場面もみられました。
次回は来年１月に第３回マイスター巡回が開催される予定です。今後も市やマイスターと連携しながら新規就農者の技術向上を支援していきます。

○美里地区女性農業者キャリアアップ研修会を開催しました
令和5年12月26日
美里農業改良普及センター

地域資源を活かした農村の振興・活性化に向けた取り組みが、国をあげて進められています。美里地域は農産物直売や農産加工、農家レストラン等のアグリビジネスに取り組む農業者が多く、経営管理や組織運営、商品開発などは、女性農業者が担う役割が大きくなっています。
そこで、管内女性農業者の資質向上を図るため、地域の特性を生かした農産物加工・販売と、消費者目線

での商品販売・陳列等について学ぶ視察研修会を 12 月６日に開催しました。
午前中は、川崎町でさつまいも栽培・加工に取り組んでいる「おいもや芋蔵」を視察しました。さつまいもは近年の消費者ニーズの高まりを受けて美里地域でも栽培が拡大しており、また直売所等では焼き芋や干し芋の売れ行きが良いことから、参加者からは栽培方法や収穫後の管理のポイント、干し芋加工時の乾燥時間や温度など、様々な質問が出されました。
午後は、野菜生産と青果販売を行っている「生駒農場株式会社」を視察しました。同社では従来までの商品陳列や販売方式の工夫・見直しや SNS を活用した情報発信等に取り組んでいるほか、長年の課題であった「食品ロス」を減らすため、店舗内にキッチンを併設して商品の果物を使用したジュースやパフェなど、新しい取り組みを続けています。参加者からは従業員の採用方法や雇用形態、青果販売とジュース・パフェ等の売上の割合などに関する質問が出されたほか、店内を見て回って商品の陳列や量目、販促 POP などを学んでいました。
普及センターでは、今後も研修会等を通じて女性農業者の資質向上と活躍を支援します。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○登米市で開催された「令和5年度スマート農業推進セミナー」に参加 しました
令和5年12月11日
登米農業改良普及センター

令和５年 11 月 30 日、中田町農村改善支援センターを会場に、登米市及び登米市農業振興協議会主催で「令和５年度登米市スマート農業推進セミナー」が開催されました。
当日は生産者、関係機関含め約 40 人の参加があり、ヤンマーアグリジャパン株式会社東北支店の阿部課長よりスマート農業の手法と導入にあたっての留意点の講話をいただいた後、ラジコン草刈り機の実演、GNSS を活用したトラクター、ドローンのデモ運転が

行なわれました。
　生産者の方の中にはスマート農業の導入を検討している方もおり、活発な意見交換が行われました。また、GNSS を活用した自動操舵は生産者の関心も高く、スマート農業導入の足がかかりとなるセミナーとなりました。
　普及センターでは、今後もスマート農業の普及に向けて支援を行っていきます。

④園芸産地の育成・強化支援

○JA みやぎ登米胡瓜部会の促成きゅうり品種説明会および病害虫講習会が開催されました
令和5年12月1日
登米農業改良普及センター

　令和５年 11 月 21 日に、JA みやぎ登米胡瓜部会の促成きゅうり品種説明会および病害虫講習会が開催され、部会員約 40 名が参加しました。
　品種説明会では、株式会社埼玉原種育成会および株式会社ときわ研究場から講師を招き、品種それぞれが持つ特性や、適正な環境・管理について説明がありました。
　病害虫講習会では、アリスタライフサイエンス株式会社から講師を招き、IPM（総合的病害虫・雑草管理）の一環である天敵を利用した防除について、天敵を利用する際のポイントや登米管内のきゅうりハウスで行った天敵導入試験結果などの説明がありました。また、普及センターからはきゅうりの萎れ症状の原因となるネコブセンチュウやホモプシス根腐病について、特徴や対策方法などを中心に説明を行いました。
　きゅうりの促成作は２月から本格的に始まり、３月中下旬には収穫を迎え、６月末まで収穫が続きます。普及センターでは、今後ともきゅうり産地活性化のため支援を行ってまいります。

○りんごの品評会と販売会が開催されました
令和5年12月5日
亘理農業改良普及センター

１等入賞した
片平洋介氏出品「ふじ」

　令和５年 11 月 27 日（月曜日）、令和５年度宮城県農林産物品評会（果実（りんご）部門）が開催され、県内から「ふじ」が９点出品されました。外観や試食用果実を使った食味を基に審査が行われ、亘理町の片平洋介氏が１等（宮城県知事賞及び宮城県園芸協会会長理事賞）を受賞されました。片平洋介氏は、昨年に続いてのりんご部門１等受賞となりました。出品された果実は、11 月 28 日（火曜日）及び 11 月 29 日（水曜日）の２日間、宮城県庁１階ロビーで展示されました。あわせて、品評会の関連企画として、「りんご祭り」と題したりんご販売会が宮城県庁１階ロビーで開催されました。管内から亘理町の結城果樹園が出店し、りんごのセミドライフルーツやりんごジュースなどを販売し、好評を博しました。
　当普及センターでは、今後も管内りんご産地の支援を行っていきます。

○「南三陸大粒（おおつぶ）ぶどう協議会」が設立されました
令和5年12月12日
気仙沼農業改良普及センター

　南三陸町では、小規模ビニールハウス等で高単価での取引が期待できる大粒ぶどうの生産が増加しており、今後もさらなる増加が見込まれます。そこで、ぶどうの高品質化、ブランド化により、南三陸町産ぶどうの評価向上や有利販売を図るため、生産者と南三陸町、普及センター等の関係機関が連携し、協議会の設立に向けて準備を行ってきました。
　この度、令和５年 11 月 30 日に設立総会が開催され、生産者９名で構成する「南三陸大粒（おおつぶ）ぶどう協議会」が設立されました。設立総会では、生産者代表の阿部博之氏より、「協議会を組織することで仲間作りをし、地域でまとまって頑張ることが大事。ぶどう生産を産業として町に定着させたい」との挨拶があり、参加した生産者からも今後の協議会の取組に対する前向きな声が多く聞かれました。今後は、南三陸町の特色（海の街、環境保全・循環型の取組み等）を生かした栽培要領の作成等、ぶどうの高品質化、ブランド化に向けた取組が行われる予定です。普及

センターでは、南三陸町のぶどうの生産振興につながるよう、継続して支援を行ってまいります。

○ポットカーネーションの現地検討会が行われました
令和5年12月13日
大河原農業改良普及センター

柴田町の鉢花生産は昭和48年のシクラメン栽培に始まり、平成7年に柴田鉢花研究会を設立し、年間を通じての鉢花の生産に取り組んでいます。

中でもポットカーネーションは、母の日に向けてゆうパックで全国に発送されるなど、花のまち柴田のＰＲに一役を担っています。

12月7日にはポットカーネーション現地検討会が開催され、生産者や種苗メーカー、関係機関等17人が参加し、ほ場で生育状況を確認しながら今後の栽培管理について意見交換を行いました。

販売の主力となる5号鉢は、9月下旬～10月中旬に苗が定植され、現在は植え替えやピンチ（摘心）など、品種に合わせた栽培管理を行っており、4月中旬から県内外の消費地に出荷される予定です。

○JA みやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催されました
令和5年12月15日
登米農業改良普及センター

令和5年12月8日に、登米市迫町でJAみやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催され、部会員約20名が参加しました。

現地検討会では部会員2名のほ場を巡回し、定植の時期を踏まえた生育状況を確認したほか、越冬に備えた被覆資材の使用開始時期などについて意見交換が行われました。

普及センターからは、今後の気象予測、これまでの天候を踏まえた今後の栽培管理、病害虫防除などについて説明しました。

普及センターでは、今後ともそらまめ栽培を支援してまいります。

○加工用ばれいしょ栽培振り返りを実施しました
令和5年12月21日
栗原農業改良普及センター

令和5年12月8日、迫川上流土地改良区を会場に、今年作の生育経過や課題を抽出し、次年作の収量・品質向上等につなげるため、栽培の振り返りを開催しました。

振り返りでは、講師にカルビーポテト株式会社宮城駐在担当を招き、「加工用ばれいしょの収量・品質から見た改善点」と題して講義をいただきました。講義では、品質、比重の年次経過データや県内の反あたり粗収入データなどから、まだまだ収量改善の余地があることが示されました。また、栽培における一つ一つの作業の大切さ、人為ミスの防止など留意点について説明をいただきました。

普及センターからは、調査した生育・収量や労働時間の結果について説明を行いました。

生産者からは、あらためて種芋の温度管理や、労働時間削減のための他産地の動きなどの質問があり、次作に向けた栽培管理のイメージを広げているようでした。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、収量・品質向上に向けて支援していきます。

○JA 新みやぎあさひなぶどう部会のせん定講習会が開催されました
令和5年12月25日
仙台農業改良普及センター

12月20日、ＪＡ新みやぎあさひなぶどう部会の部会員を対象に、ぶどうのせん定講習会が開催され、18名の生産者が参加しました。

講習会では、普及センター職員が講師となり、せん定の前にぶどうの芽のつき方や枝の登熟程度など基本的な知識の確認を行い、その後実際にせん定のデモンストレーションを行いました。生産者から「自分だったらこう切る」等の意見もたくさん交わされ、生産者同士で教えあう場面も多くみられました。

普及センターでは、今後も引き続き栽培管理や技術指導を行い、果樹の安定生産を支援してまいります。

○第3回シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました

令和5年12月25日
栗原農業改良普及センター

令和５年 12 月 15 日（金）に栗原市金成で「第３回シャインマスカット栽培技術研修会」を開催しました。

当日は、シャインマスカットの生産者や今後導入予定の方々、合わせて 47 人の参加がありました。

始めに普及センターから作成した資料（ぶどうの樹形の作り方とせん定）に基づき、整枝せん定の仕方と芽傷処理について、基本的な技術と実施時期等について説明しました。

次に、現地ほ場の園主である田中学さんを講師に、田中さんが作成した資料に基づき、今年の生育概況とせん定に当たってのポイントについて説明を行い、その後に実際のせん定について実技を行いました。また、せん定道具を持参した方には、実際にほ場の樹をせん定するなどの体験をしていただきました。実際にせん定した方からは、「樹のどこを切れば良いのか明確になり、大変参考になった。」との意見が聞かれました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、シャインマスカット等のぶどう栽培の拡大に取り組んでまいります。

○「宮城県ぽてと生産者協議会」「株式会社舞台ファーム（美里グリーンベース）」の2団体がみやぎ園芸振興大賞を受賞！

令和5年12月26日
美里農業改良普及センター

園芸算出額の増大に貢献した団体等を表彰する令和５年度みやぎ園芸振興大賞において、「宮城県ぽてと生産者協議会」および「株式会社舞台ファーム（美里グリーンベース）」が大賞を受賞し、12 月 19 日に表彰状が授与されました。

宮城県ぽてと生産者協議会は、加工用ばれいしょの需要に応えるため、県内の加工用ばれいしょ生産者で構成される広域組織です。宮城県の加工用ばれいしょの取組は平成 19 年に美里町から始まり、研修会、

現地検討会等による技術力向上、新規取組者の確保により、令和５年には県全体で作付面積 92.7ha まで拡大しています。

今回の受賞では、協議会の取組が県内のばれいしょ生産振興に寄与したことが高く評価されました。

美里グリーンベースは、日本最大級の規模を誇る葉物類（レタス類）の植物工場です。最先端の設備で作業の多くを自動化しているほか、SDGｓの取組として、液肥の再利用や暖房設備から排出される二酸化炭素を再利用するなど、高品質なレタスを安定的かつ効率的に生産しています。

今回の表彰では、こうした取組に加え、地域における雇用の創出や地域生産者との連携による地域経済への貢献が高く評価されました。

両団体は美里地域の園芸生産の拡大や雇用の創出等に寄与しています。今後も地域の牽引役として活躍がますます期待されます。

○大郷町でえだまめの振り返り検討会を開催しました

令和5年12月26日
仙台農業改良普及センター

令和５年 12 月 21 日(木)、大郷町粕川において、令和５年産えだまめ振り返り検討会を開催し、えだまめ生産法人５社８名が参加しました。

検討会では、JA 新みやぎから出荷実績や販売状況について、普及センターからは生育経過や品種比較調査ほの結果について、農業・園芸総合研究所からは排水対策試験の結果等について情報提供を行いました。

今作では、一部の品種・作型において高温や害虫による収量・品質低下の影響などがあったものの、総じて単収の増加や製品率の向上が図られ、栽培技術の定着が進んできたことが窺えました。また、次作に向けてさらなる技術の向上と増収を目指し、法人間で活発な意見交換が行われ、有意義な検討会となりました。

今作の実績を振り返り、来年は作付面積の拡大を見込む法人も複数出てきているところですが、こうした動きも踏まえつつ、来年１月には作付計画や出荷体制の検討を行う予定としています。

○日本なしのせん定講習会が開催されました
令和5年12月26日
美里農業改良普及センター

美里町の「北浦梨」は大正時代から続く特産品で、県内有数の日本なし産地です。

JA 新みやぎ北浦梨部会（部会員 35 人）は、令和６年産の高品質な果実生産に向けて、12 月６日にせん定講習会を開催しました。

今年は実践編として利府町の日本なし生産者・引地龍夫氏を講師に招いて開催し、部会員 18 人が参加しました。

初めに「幸水」をせん定し、その後「あきづき」のせん定を行いました。講習会の会場の樹園地は「幸水」･「あきづき」ともに花芽の着生が良好であったことから、２～３年利用した結果枝を一気に更新することとし、せん定の実技演習を行いました。また、主枝・亜主枝・結果枝の先端の処理について、樹勢や果実生育・品質の観点を踏まえて助言をいただきました。

参加した部会員からは「主枝・亜主枝の先端部は勢いを保つための処理を行っていたが、結果枝は意識していなかったため、取り入れたい」との声や「枝を誘引する際、弓なりにならないコツがわかった」といった声が聞かれるなど、有意義な研修となりました。

普及センターでは、今後も「北浦梨」の安定生産に向けて部会活動を支援していきます。

○たまねぎ生産拡大に向けて先進地調査を行いました
令和5年12月26日
大河原農業改良普及センター

大河原農業改良普及センターでは、本年度のプロジェクト活動として、仙南地域のたまねぎ生産拡大に向けた活動に取り組んでいます。

令和５年 12 月 12 日、ＪＡみやぎ仙南たまねぎ部会の生産者及び関係者で、福島県相双地域のたまねぎ生産地の現地調査を行いました。ＪＡ福島さくら管内の双葉郡では、令和５年産たまねぎの栽培面積が、30 ヘクタール以上に拡大しています。

面積が拡大している中でも、生産者が丁寧な病害虫防除に努めており、ほ場見学と併せて、生産者間の意見交換も行うことができ、大変有意義な調査となりました。

普及センターでは、今回の調査結果を活かせるようＪＡ等と連携を図りながら、引き続き管内のたまねぎ生産振興に取り組んでまいります。

○火傷病に係る花粉確保の連絡調整会議を開催しました
令和5年12月26日
大河原農業改良普及センター

りんご・なしの授粉用花粉を確保しましょう

国内への侵入を警戒している重要病害である「火傷病」の発生が中国で確認され、中国産りんご・なし花粉の輸入が停止されました。中国産花粉が使用できなくなるとともに、既産花粉の入手も困難になることから、購入花粉を使用していた生産者は、花粉の自家採取を進める必要があります。産地内で効率的な花粉採取を行うとともに、採取した花粉の有効利用に努めましょう。

1　人工授粉に向けた花粉の自家採取について

【花（花粉）の採取】
(1) せん定時、育枝品種と交雑効合性のある品種の長果枝をまめに残し、枝採取（1～3月）はビニールハウス等で保温し、開花を早め採取します。
(2) 開花樹には果実をつけない部分の花から花粉を採取します。
(3) 開花樹の早い品種から摘んだ花を用いて花粉を採取します。
※採取する花は、開花直前の長蕾状にふくらんだ花、もしくは開花直後でまだ花粉の出ていない花を利用します。採取した花は、早めに病原菌にかけます。

ハウスで保温したなしの長果枝

【病害とし・開葯・保管】
(1) 的確採取を使用して花がやがくを取り除き、3mm目程度のふるいにかけて药のみにします。
(2) 採取した药は開葯器の底に薄く広げて開葯器に入れ、25℃程度で15～20時間保温します。
(3) 開葯後に湿度が高いと発芽率が下がるため、一時保管する場合は、紙等で花粉を包み、シリカゲル等の乾燥剤とともに密閉等に入れて冷蔵室で保管します。

採取する花（蕾長状、開花直後）

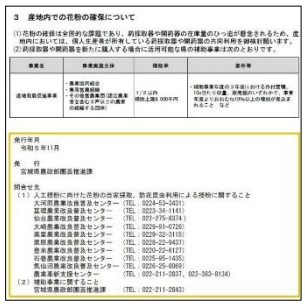
採取する花の量
なし・りんごの場合、授粉する面積10aに対し約1,500個を目安とします。

2　訪花昆虫利用による授粉

【複数品種を混植している園地では、ミツバチやマメコバチを利用】
(1) 全国的にミツバチに結実を依存した場合、りんごでは1haあたり5群以上必要です。
(2) マメコバチの行動半径は果の間近および50m程度であり、約10m間隔にあたります。りんごでは、巣を置く場所から50m離れた場所で平均結実率50%を目標にするには、約500頭が必要とされています。

訪花するミツバチ

防除薬の検討
開花期にはミツバチ等に影響する殺虫剤を使用せず、開花期前の殺虫剤使用では残効性を考慮しましょう。



3　産地内での花粉の確保について

(1) 花粉の確保は全国的な課題であり、病害取巻や開葯器の在庫量のひっ迫が懸念されるため、産地内においては、個人生産者が所有している授粉器や開葯器の共同利用を検討討願います。
(2) 的確採取や開葯器を新たに購入する場合に活用可能な種の補助事業は次のとおりです。

事業名	事業実施主体	補助率	要件等
産地発認拡張事業	・農業協同組合 ・事業推進組織 ・農業者で構成する団体（法人農業生産組合を除く） の組織する団体）	1/3 以内 補助上限1,000千円	・補助事業年度の３年後における自己財源が10%以上（※1）確保、販売額のハードルが、事業年度より おおむね10%以上の増額が見込まれること　など

発行年月
令和５年11月

発　行
宮城県農政部園芸推進課

問合せ先
（１）人工授粉に向けた花粉の自家採取、防花昆虫利用による授粉に関すること
大河原農業改良普及センター　（TEL：0224-53-3431）
亘理農業改良普及センター　（TEL：0223-34-1141）
仙台農業改良普及センター　（TEL：022-275-8214）
大崎農業改良普及センター　（TEL：0229-91-0726）
栗原農業改良普及センター　（TEL：0228-32-3115）
東部農業改良普及センター　（TEL：0225-22-8437）
登米農業改良普及センター　（TEL：0220-22-8127）
石巻農業改良普及センター　（TEL：0225-95-1435）
気仙沼農業技術普及センター　（TEL：0226-25-8069）
農業革新支援センター　（TEL：022-211-2837、022-383-8134）
（２）補助事業に関すること
宮城県農政部園芸推進課　（TEL：022-211-2843）

国内への侵入を警戒している重要病害である「火傷病」の発生が、中国で確認され、中国産りんご・なし花粉の輸入が停止されました。

仙南地域は、県内の果樹産出額のうち約 50%を占め、日本なしやりんごの生産が盛んに行われており、令和６年産の花粉確保に向けて、準備が求められているところです。

このような中、大河原地方振興事務所では令和５年 11 月 30 日、管内の市町、ＪＡ、普及センターを含めた関係機関を集め、「令和６年産なし・りんごの花粉確保に係る連絡調整会議」を開催しました。

会議では、火傷病の侵入防止に関する共通認識を持つとともに、令和６年産花粉の確保に向けて、関係機関でどのような支援ができるか検討しました。

産地として、令和６年産の春を安心して迎えられるよう、しっかりと準備を進めていきたいと考えています。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○令和5年産稲作の総合検討会が開催されました
令和5年12月6日
登米農業改良普及センター

令和５年 11 月 30 日に JA みやぎ登米迫稲作経営部会の総合検討会が、12 月１日に石越町第 12 集落興農実行組合の稲作講習会が開催されました。

迫稲作経営部会では、脱プラスチック対策肥料の実証試験に取り組んでおり、令和５年度の試験結果について生産者が一人ずつ結果と感想の発表を行いました。今年は異常気象により厳しい栽培条件ではありましたが、収量・品質ともに良好な結果が得られ、来年につながる内容となりました。

石越町第 12 集落興農実行組合では、毎年稲作関係の講習会を開催しており、今回は普及センターから令和５年産稲作の総括と令和６年産に向けてのポイントについてお話をさせていただきました。

また、プロジェクト課題として取り組んでいるグリーンな栽培体系の実証試験結果等について PR を行いました。

異常気象への対応としては、まずは土づくりをしっかり行うことと、基本技術を励行することが重要だと再確認しました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稲の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○大豆現地検討会(収穫前)が開催されました！
令和5年12月13日
石巻農業改良普及センター

令和５年 11 月６日から 10 日まで石巻管内の各地域（河南、石巻、矢本、河北、桃生）で収穫前の大豆現地検討会が開催されました。検討会は各地域の転作部会や JA 等が主催し、当普及センターの職員が講師となって、生産者とともに収穫適期の検討を行いました。

今年の管内の大豆は夏期の高温乾燥の影響により、莢数の減少や小粒化が見られましたが、生産者の方々は品質の良い大豆を収穫するために適期収穫と適切な乾燥作業について確認していました。大豆の収穫は成熟が早い品種では 11 月中旬から始まり、12 月まで続く予定です。

当普及センターではこれからも高品質な大豆生産に向けた支援を続けていきます。

○酒米の品質向上に向け一丸となって検討！
～松山町酒米研究会作柄検討会～
令和5年12月18日
美里農業改良普及センター

松山町酒米研究会（以下「研究会」）は、大崎市松山地域で地元酒蔵の（株）一ノ蔵と連携しながら酒米づくりに取り組んでいます。

12 月９日に「松山町酒米研究会令和５年産酒米作柄検討会」が開催されました。

はじめに、普及センターから今年度の水稲の作柄全般について説明を行い、続いて酒米の品質向上に向けて肥料メーカーと連携しながら取り組んだ調査結果などについて報告しました。

本年産の酒米の作柄は、生育期間を通じた高温や８月の水不足等の影響もあり、粒は小さめで未熟粒等がやや多く、品種によっては胴割粒が前年より多い傾向にありました。一方で日照が確保され、前年の大雨のような目立った気象災害も無かったことから、収量はやや多い傾向となりました。

作付面積が増加している県育成品種の「吟のいろは」については、心白発現率及びタンパク質含量ともに平年並みで、高温年だったにもかかわらず胴割粒が少なめとなりました。

生産者からは、「天候の影響は避けられないものの、「吟のいろは」を始め酒米品種のさらなる品質向上に向けて、関係機関と共に積極的に取り組んでいきたい。」といった意見が出されました。

普及センターでは、引き続き研究会の活動を支援し、特色ある米づくりを推進していきます。

○米山水稲部会の総合検討会が開催されました
令和5年12月20日
登米農業改良普及センター

令和５年 12 月 18 日に JA みやぎ登米米山水稲部会の総合検討会が開催され、今年の稲作について気象経過や生育概況を通して振り返りを行いました。生産者は高温の影響に対する関心が高く、熱心に話を聞いていました。令和６年産に向け、普及センターから土づくりや晩期栽培の重要性を説明、生産者の理解も深まりました。

また、プロジェクト課題として取り組んでいるグリーンな栽培体系の実証試験結果について紹介を行いました。肥料メーカーからは、海にやさしいお米づくりとして、プラスチック被覆肥料を使わないペースト二段施肥やペーストプロジェクトの紹介もあり、グリーンな栽培体系について広く周知することができました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稲の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○農地整備事業に向けた土壌調査を実施しました
令和5年12月25日
仙台農業改良普及センター

大和町吉田沢渡地区で受託調査中の農地整備事業計画のため、土壌調査を実施しました。作物の生育に影響する土壌の特質を調査し、整備方針に反映させることを目的に実施されるもので、暗渠排水工の必

要性の判断材料になるものです。

10 月 30 日に、検土杖による調査を行い、土壌タイプ別に農地を区分しました。地区の農家の方の協力もあり、69 地点の調査を行いました。

その結果をもとに 11 月 20 日に４カ所の試坑調査を実施しました。約１ｍ四方の穴を掘り、詳細に土層の厚さ、土性や土色等の調査を行いました。調査地点によっては、地下水位が高く、水がたまり排水の悪さやが明確にわかるほ場もありました。

当地区では、水稲以外の土地利用型作物や収益性の高い作物の栽培を計画しており、農地整備事業で汎用性のある水田が整備されることが期待されています。普及センターでは、収益性の高い水田農業推進に向け、引き続き支援を行っていきます。

○高収益作物の試験栽培の振り返りを行いました
令和5年12月25日
気仙沼農業改良普及センター

気仙沼市本吉町表山田・三段田地区では、地域農業の継続・発展に向けて、今年度、高収益作物の候補としてえだまめとさつまいもを選定し、試験栽培に取り組みました。

令和５年 12 月 14 日、地区の中心経営体及び主要農家８名が集まり、試験栽培の振り返りを行いました。担当農家から収支報告がなされ、続いて、普及センターから、試験栽培で明らかになった成果、課題とその対応策について説明し、来年度に取り組む内容について提案するなど、農業者と意見交換をしながら検討しました。その結果、えだまめは、高収益作物の候補品目になり得るとの合意に至り、本作に取り組もうとする意欲が感じられました。

普及センターでは、今後も地域の取組を支援していきます。

○涌谷の「金」は来年もざっくざく！？
～「金のいぶき」実績報告会
令和5年12月28日
美里農業改良普及センター

12 月 11 日に、JA 新みやぎ涌谷稲作生産部会による、令和５年度「金のいぶき」実績報告会が開催されました。

今年は、猛暑による米の品質低下が見られ、特に胚芽の大きい「金のいぶき」では、穂発芽などが多く発生しました。来作に向け、普及センターから、生育調査データなどから得られた刈り取り適期や、穂発芽を軽減させるための移植時期などについて説明を行いました。

涌谷町は、遠い奈良時代に日本で初めて金が採れ

た町で、現在は「現代の金」として「金のいぶき」の栽培が盛んにおこなわれています。昨年は７月の大雨、今年は猛暑と、近年は気象に悩まされていますが、来作に向けた情報交換も行われ、前向きな声も多く聞かれました。

新米がおいしい季節です。今年のお米をたくさん頂いて力をつけ、来作も自然と渡り合う稲作農家の皆様をサポートしていきます。

２．農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○大麦の播種を行いました
令和5年12月7日
気仙沼農業改良普及センター

令和５年 11 月 24 日、気仙沼市本吉町で、大麦の播種を行いました。

水稲の収穫・調製と作業が競合する秋の播種を効率的に行うため、水稲のＶ溝播種機（鋤柄農機（株）、愛知県）による不耕起播種のデモを行いました（オペレーター：ヤンマーアグリジャパン（株））。大麦での活用はほとんど知見がありませんが、当日は精度良くは種ができており、引き続き出芽状況の確認を行っていきます。

また、10 月 24 日にも別の方式（スリップローラーシーダー：松山株式会社（ニプロ）、オペレーター：クボタアグリサービス（株））での播種を行っており、播種方式や時期の違いによる栽培管理を検討していきます。

気仙沼市は、平成３年ころは 70ha の大麦作付けがありましたが、以降平成 10 年ころまでに大きく減少し、現在は統計上の栽培は確認されていませんが、本年秋の播種から、新たに約２ha の作付けを開始しました。近年の国際情勢の不安定化による穀物の供給不安定化、地域の農業の継続に向けた耕作放棄地の解消、生産者の経営発展を目標に、関係機関が連携して需要に応じた作付けを図っていくこととしています。

今後は、雑草防除、排水対策や生育に応じた追肥など、引き続き管内の環境に対応した栽培の支援を行っていきます。

３．持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○宮城県庁にて生活研究グループの PR 販売会が行われました
令和5年12月5日
登米農業改良普及センター

令和５年 11 月 20 日、21 日の２日間にわたり、宮城県庁１階ロビーにて県内の生活研究グループの会員による農産物や加工品の PR 販売会が行われました。

21 日の販売会では、登米地区生活研究グループが登米市４Ｈクラブとともに葉物野菜や根菜類、椎茸、特産のりんごを使った蒸しパン・ジュース等の加工品を出品しました。今回、登米地区の参加は昨年に引き続き２回目で、初めて４Ｈクラブと連携しての出展でしたが、たくさんの方にご来場いただき、生活研究グループの活動や登米市を PR しながら販売することができました。

今後も普及センターでは生活研究グループの活動をはじめ、女性農業者の支援を行ってまいります。

○「やくらい土産センター・山の幸センター活性化研修会」（商品アピール力向上編Ⅱ）を開催しました
令和5年12月8日
大崎農業改良普及センター

加美町の薬莱山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人さんちゃん会が運営する農産物直売所で、平成６年のスタート以来、中山間地である当地域の活性化に寄与してきました。しかし、ここ数年、売上が減少傾向にあるため、普及センターと加美町では、経営改善に向けた様々な支援を行っています。

その一環として、令和５年 12 月５日に「やくらい土産センター・山の幸センター活性化研修会」（商品アピール力向上編Ⅱ）を開催しました。この研修会は年３回開催することとしており、今回は２回目となります。

講師には前回同様 POP 広告クリエーターとして活動されている経営コンサルティング波多野事務所の波多野ゆか氏をお迎えし、商品情報を楽しく、わかりやすく発信できる POP の作成方法についての講演をいただきました。続いて作成実習を行いましたが、今回は筆文字や立体的なものなど前回よりもさらに高度な技術を使った POP の作成を行いました。

POP は商品説明を行う販売スタッフの役割も担っていると言われています。今後、今回の研修会の成果をもとに、美しく、お客様の心に語りかけるような POP が売り場を彩ることでしょう。

○登米地区農村生活研究グループ生活改善実践交流交歓会を開催しました
令和5年12月14日
登米農業改良普及センター

令和５年 12 月５日（火）に、登米地区農村生活研究グループ連絡協議会の生活改善実践交流交歓会を登米合同庁舎で開催しました。

今年はグループ員のスキルを活かし、12 月にふさわしいクリスマスリース作りについて、グループ員７人が取り組みました。

当日はグループ員の一人が講師となり、事前に段ボールをリング状に切り抜いて緑色の毛糸を巻いたリースの土台を基に、それぞれの参加者が思い思いにモールや木の実などのオーナメントを貼り付けて、オリジナルのクリスマスリースを制作しました。その後、昼食を取りながら、制作した作品の感想やグループ員の近況などについて情報交換を行いました。

普及センターでは、今後も研修会等を通じて、女性農業者等の活動を支援していきます。

○古宿区画担い手会議が開催されました
令和5年12月14日
登米農業改良普及センター

登米市迫町の古宿地区では、特色ある地域農業を推進し、地域住民が誇りとする農村を次世代に継ぐ「地域営農構想」を取りまとめ、２ha への大区画化やスマート農業による効率化に向けた農地整備を目指しています。当普及センターではこの取り組みを支援するため、この地区を対象にプロジェクト課題「農地整備を契機とした地域営農体制の構築」に取り組んでいます。

令和５年 11 月 10 日（金）に、古宿地区で計画されている農地整備事業に関係する地元の担い手による会議が開催され、関係機関も含めて 13 人が出席しました。

各々の担い手から経営の現状と今後の方針について説明があり、担い手や関係機関で情報共有を図るとともに、集落内の農地整備地区での農地集積や将来の営農に向けて意見が交わされました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、古宿地区の営農体制の構築に向けて支援していきます。

○地域計画策定研修会（色麻町）が開催されました
令和5年12月15日
大崎農業改良普及センター

令和５年 11 月 28 日（火）、色麻町で地域計画策定研修会が開催されました。色麻町は、宮城県の実施している地域計画策定推進モデル地区事業のモデル地区に位置付けられ、農業に関わる 24 行政区の将来地

図を町で１つの地域計画としてまとめることとしています。普及センターでは、モデル地区事業が円滑に進むよう、関係機関とともに支援を行ってきました。

今回は株式会社ノースエイムの宮村代表をファシリテーターに迎え、農業委員会、土地改良区、JA 等の関係機関が見守る中、行政区の代表者が一堂に会して地域計画策定に向けたワークショップが開催されました。24 行政区を４つのグループに分け、「農地集積・集約の進め方を考えよう」をテーマに、それぞれの解決策をふせんを用いて整理していきました。参加者は各地区で抱える課題を話し合いながら、将来の農業について思いをはせていました。

普及センターでは、引き続き関係機関と連携しながら円滑に話し合いが進むよう、支援していきます。

○清水地区の若手農業者に大豆栽培講習会を実施しました

令和5年12月19日
大崎農業改良普及センター

大崎農業改良普及センターでは、プロジェクト課題として色麻町清水地区の法人化を軸にした将来の営農ビジョンの形成を支援しています。

清水地区では、農地整備中の転作作物として集落営農で大豆栽培に取り組む予定となっているものの、これまで若手農業者は大豆栽培を行っていなかったことから、「地域で取り組む予定の大豆栽培について学びたい」という希望がありました。そこで今回、令和５年 12 月６日（水）に普及センターの作物担当職員、JA 加美よつば職員を講師として栽培講習会を実施することになりました。質疑応答を交えながら、大豆栽培の基礎や地域での防除体制、収穫・乾燥調製体制などについて講義があり、参加者は真剣に聴講していました。参加者からは、「大豆栽培と地域での生産体制がよくわかった」との感想が聞かれました。

普及センターでは、引き続き関係機関と連携しながら、清水地区の次世代の営農を担う若手農業者を支援していきます。

○仙台市下倉大原地区で鳥獣被害対策勉強会を開催しました

令和5年12月25日
仙台農業改良普及センター

令和５年 12 月 17 日(日)、仙台市青葉区下倉集会場において、集落ぐるみ鳥獣被害対策モデル事業の勉強会を開催し、下倉大原地区の住民 26 名の参加がありました。

この勉強会は、イノシシによる農作物の被害を効果的に防止するために地域住民のイノシシに対する理解を深め、被害対策手法の習得を目的に開催したもので、合同会社東北野生動物保護管理センターの宇野代表より、イノシシの生態と被害対策について講義いただきました。

後半は、下倉大原地区では、平成 22 年度に設置した侵入防止柵が令和７年度に更新時期をむかえるため、現状の問題と侵入防止柵のルート等について、図面を確認しながら地域住民で意見交換を行いました。

今後は令和７年度侵入防止柵の更新に向けて、地域住民で効果的な設置方法を検討していくことになりました。

イノシシの被害は依然としてみられ、対策が必要であることから、普及センターとしても効果的な対策ができるよう支援していきます。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○(有)大郷グリーンファーマーズがみどり認定を取得しました

令和5年12月21日
仙台農業改良普及センター

令和５年 12 月 18 日(月)、県庁で宮城県みどり認定証授与式が開催されました。

県は、みどりの食料システム法に基づき、持続可能な食料システムの構築に向けて、令和５年３月に「宮城県みどりの食料システム戦略推進基本計画」を策定し、生産性と持続性の両立の実現を目指して取り組んでいます。

みどりの食料システム法に基づき、環境に配慮した農業に取り組む県内４つの農業法人が県内で初めて認定され、今回、認定証が授与されました。

大郷町の有限会社大郷グリーンファーマーズ（代表：西塚忠元）は、水稲、ネギ、小松菜栽培において堆肥等の有機質資材を施用して土づくりをするとともに、化学肥料・化学農薬を慣行より５割以上削減する取組と、水稲栽培で中干し期間を１週間延長し、メタンガス発生を抑える取組の「環境負荷低減事業活動実施計画」で認定を受けました。

西塚代表からは、環境負荷低減の農業の実践を継続し、さらに拡大していきたいとの認定者挨拶がありました。

普及センターでは、今後も環境に配慮した持続可能な農業の取組を支援していきます。

○宮城県内初のみどり認定証授与式がおこなわれました
令和5年12月22日
栗原農業改良普及センター

令和５年 12 月 18 日（月）に、宮城県庁で宮城県みどり認定証授与式が開催され、栗原管内から株式会社宮城白鳥農場の白鳥一徳代表取締役及び有限会社ライスサービスたかはしの髙橋文彦代表取締役が出席しました。

この認定は、国の「みどりの食料システム法※」に基づき、県で策定した「宮城県みどりの食料システム戦略推進基本計画」に沿った環境負荷低減事業活動を行う農林漁業者等が、「環境負荷低減事業活動実施計画」を作成し、知事の認定を受けるもので、県内では初の認定となります。

当日は申請のあった他の２法人とともに、橋本農政部長から認定証の交付を受け、記念撮影に臨みました。

白鳥代表からは「みどり認定を活用して地域をけん引していきたい。」、髙橋代表からは「みどり認定農家として相応しい取り組みを今後も実践していきたい。」と力強いお言葉をいただきました。

普及センターでは、環境に配慮した農業技術の普及や本認定制度ＰＲをしていくこととしております。

※環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律

○JA 新みやぎみどりの地区ほうれん草協議会の実績報告会が開催されました
令和5年12月27日
美里農業改良普及センター

令和４年度に「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」を実施した、ＪＡ新みやぎみどりの地区ほうれん草協議会では役員を集め実績報告会を開催しました。

各地区に設置した試験ほ場は 11 か所で、ＵＶカットフィルムの被覆、粘着トラップによる捕虫数の確認、抵抗性品種の導入で試験を行いました。

ＵＶカットフィルムの効果では、アザミウマ類、アブラムシ類の発生量は激減し、粘着トラップの捕虫数でも効果が確認できたことから、今後導入の拡大を図って行くことを確認しました。また、抵抗性品種は、作期が遅れたため、萎凋病発生時期の確認や品種の特性把握には至りませんでした。

単年度試験で年度途中からの実施となったため、効果の確認が不十分であったことから、引き続き経過を観察することとなりました。

普及センターとしては、本事業で作成した栽培マニュアルを活用した技術指導や、ＨＰ等による情報発信を行っていきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

＜大河原＞
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

＜亘　理＞
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

＜仙　台＞
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

＜大　崎＞
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

＜美　里＞
〒987-0005
美里町北浦字笹舘5
TEL:0229-32-3115

＜栗　原＞
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

＜登　米＞
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

＜石　巻＞
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

＜気仙沼＞
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068

＊各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場　NEWS LETTER　No.203
発行日:2024 年 1 月 22 日
発　行:宮城県農政部農業振興課
編　集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837　FAX:022-211-2839
E-mail ： gbfs@pref.miyagi.lg.jp